

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

○本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思う点」などについて記入してください。

事業所名 夢門塾 神石高原

公表日 2026年 1月

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	・ウッドデッキを利用している。 ・学習と遊びを分けている。	引き続き、部屋分け等を行いながら支援していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	・利用人数によってシフト調整をして、適正人数になるようにしている。	職員配置の状況によって十分な個別対応が難しい場合があるため、配置体制の見直しや工夫を行い、より安心できる支援環境づくりに努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	・角が危ない所にはコーナガードを付けている。 ・学習部屋、運動部屋と分かれており、クールダウン室もある。	学習室での活動が適切に行われるよう、部屋の使い方について子どもたちへ再度周知し、落ち着いた環境づくりに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	・日々の清掃や整理整頓を行い、安心して過ごせる環境づくりに努めている。 ・活動ごとに適した部屋を使い分けている。	職員間で振り返りを行い、改善点を共有し、より過ごしやす環境づくりに努めている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・クールダウン室、静養室を活用している。	子どもの気持ちを落ち着かせ、一人で過ごせる空間を継続して確保していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返りに）、広く職員が参画しているか。	6	1	・職員間で振り返りや案を出し合っている。 ・毎日、申し送りノートを使い職員に周知している。	職員間での話し合いの機会を増やし、情報共有と連携の強化を図っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・保護者様評価の結果を職員で共有し、意見や要望を具体的な支援や業務改善に反映できるように工夫している。 ・保護者様のニーズを取り入れながら活動を考えている。	職員間で話し合い、決定事項を確実に実行できる体制づくりに努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・私の歩みや、OJTなどを通して話を聞く場を設けている。 ・毎朝の申し送り時に気付きや意見交換などが出来る場を設けて改善に繋げている。	普段の業務中でも、気になることがあれば時間を見つけて職員間で話し合うようにしている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2		現在は実施していないが、第三者や訪問者からの指摘・助言があった際には、内容を共有し改善に努めている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・全体研修や勤続年数に応じた研修を行っている。	全体研修に職員が参加できるよう、勤務調整を行う。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	・子どもの特性やニーズを踏まえて支援プログラムを作成し、分かりやすく説明できるよう工夫している。	支援プログラムをいつでも確認できるよう、事業所内で適切に保管・共有していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	・子どもへの職員の気付きや意見を収集し、成長や課題を見つめ直している。 ・個別支援計画やモニタリングを活用し個別性の質を高めている。	情報共有や話し合いの機会を確保し、適切なアセスメントに基づいた支援計画の作成と連携の充実を図っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	2	・午前中の時間を使って話し合いをしている。 ・事業所内でカンファレンスを行い、情報共有や対応を行っている。	非常勤職員も含めたカンファレンスの機会を増やし、支援の方向性を具体的に共有していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	・ファイルを活用したり、定期的なミーティングなどで内容を確認することで計画に沿った支援が行えるように工夫している。	共通認識が十分でない点があるため、情報共有の方法を見直し、職員間での理解の統一を図っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	・申し送りノートを活用して気付きや変化を伝え合うようにしている。	改めて全員が適切な支援内容を理解し、積極的に確認できる方法を活用していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・ガイドラインを参考にしたり、保護者様の話を基に支援内容を設定している。 ・必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容が明確になるように工夫している。	保護者だけでなく子どもの声にも丁寧に耳を傾け、分かりやすく具体的な支援内容の設定に向けて継続的に向上を図っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・管理者も含めて、話し合いをしながら行っている。 ・毎月1回全員で話し合いをしている。	週間行事やイベントの企画を、職員全員で検討し進めていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	2	・季節を意識した行事や外出行事、インターネットなどで情報を取り入れられるよう工夫している。 ・運動、工作、季節の行事など多様性を持たせるように考えている。	他事業所の実践も参考にしながら、工作やクッキング、SSTなど、日常生活に必要な課題に継続して取り組んでいく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	・集団活動を中心にしながら、利用者一人ひとりの状況に応じて、気持ちの切り替えができるよう別室での対応も行っている。	個別活動の時間を増やしながら、一人ひとりに応じた適切な支援を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	・毎朝の朝礼後、ミーティングを必ず行っている。 その日の支援内容や役割も話し合っている。	休みの職員についてはノートで情報共有を行っているが、理解に差が出ないよう、必要に応じて口頭確認も行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	6	1	・送迎後に情報や気付きを共有している。翌日の申し送り時にも振り返りを行い共有している。	勤務時間の都合で当日中の実施が難しい場合もあるが、出来る限り当日対応を心掛けていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	・「コドモン」および「ほのぼの」のケース記録に記載し、記録として残している。	その日の記録を文書として確実に残り、次の支援改善に繋げていく。
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・モニタリングの結果をもとに必要に応じて支援内容や活動内容の見直しを行っている。	定期的実施するとともに、必要に応じて柔軟に対応していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	・夢門塾の3本柱や5領域を意識しながら支援を行っている。	改めて職員全員でガイドラインを見直し、支援に活かしていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	・選択肢を多く用意し、自分で選んで決めてもらうようにしている。	子どもたちが状況に応じて、可能な範囲で自己決定できる力を育てていく。

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	・児童発達支援管理責任者が参加してその内容を職員に共有している。	児童発達支援管理責任者にも参加してもらえよう、体制を整える。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	・必要に応じて医療、福祉、教育機関と情報共有を行い連携を図っている。	各関係機関の役割を理解し、情報共有を図りながら連携して支援を行う体制を整えていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	・各学校から毎月、下校時刻表をFAXで受け取っている。 ・状況に応じて学校の先生と情報共有を行い、連携を図っている。	学校へ迎えに行った際に、その日の学校での様子を教員から聞き、児童の体調や気分の把握に努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	・保護者様や児童発達支援施設、相談支援員様から情報を共有していただいている。	いただいた情報を基に、支援の方向性を共有し、同じ方針で支援を行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	4		現在、該当する利用者はいないが、該当者が生じた場合は速やかに情報共有を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	・連携を図ったり研修を受けたりする機会がなかった。	必要に応じて関係機関との連携を図るとともに、研修を受ける機会を設けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	0	・隣が放課後児童クラブなので、日頃から一緒に遊んだり、合同行事をしたりしている。	継続して児童クラブとの交流を図っていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4		これまで十分に参加できていなかったため、今後は積極的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・利用時の様子(できていたこと・難しかったこと)を保護者の方と共有し、家庭での様子も確認しながら支援に繋げている。	課題について気になる点には速やかに対応し、保護者が安心して相談できる場となるよう、職員一同努めている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		これまで十分に実施できていなかったため、今後は家族参加型研修の実施と、関係機関からの情報を保護者へ適切に共有していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	・契約時に丁寧な説明を心掛けている。	引き続き、丁寧な説明を心掛けていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	・モニタリングや送迎時などの機会を通して、保護者様や本人の意向を確認し、支援に反映している。	今後ともこれらの観点を踏まえて意向を確認していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	・保護者の方に計画案を提示し、確認、同意を得た上で承諾のサインをいただいている。	今後もしっかりとした説明を心掛け、確認を行いながら同意を得ていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	・保護者の思いを尊重し、相談を受けるとともに、その内容や助言について職員間で共有し、支援を行っている。	必要に応じて、相談支援専門員やご家族と情報共有の時間を設けている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	・年数回、家族会を行っている。11月3日および24日に家族会を行った。親子でトートバック作り、ピザ作りを行った。	参加者を増やすため、開催日の見直しなど必要な改善を行っていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	・管理者を通して苦情内容を確認し、職員間で解決策を共有することで再発防止に努めている。	日頃から職員間での情報共有を密にし、速やかな報告・連絡・相談を行い、事前に防げる体制づくりに努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・毎月、「夢通信」「夢だより」を配布し、文章や写真で活動内容のお知らせをしている。	ホームページやブログを運用していることを周知し、他事業所の活動にも触れってもらう機会を増やしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・鍵付き書庫で保管している。 ・個人情報保護に配慮し、利用者の写真利用の可否等を一覧化し、職員間で共有している。	継続して同一の対応を行っていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・言葉だけでなく視覚で支援にも配慮しながら、特性に合わせた伝え方をしている。	ご要望や声に応じて、その都度柔軟に対応していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	・地域主催のフリマに出店した。 ・新しい施設のオープンセレモニーに来賓として地元の方を招待させていただいた。	昨年度同様、神石で「来見館ゆめ祭り」を開催し、地域住民の多くの方に参加していただく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	・年に数回の研修を通じて理解の確認と意識の共有を行っている。 ・マニュアル等、職員の見えやすい位置に置き、車内には事故対応マニュアルを入れている。	保護者にも周知できるよう、事務所入り口の見える位置にマニュアル等を設置し、いつでも確認できるよう再度周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	・BCPの研修を行い、座学や災害伝言ダイヤルの使い方等、訓練している。	決められた時期に実施し、常に想定した支援を行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握しているか。	7	0	・利用前(契約時など)に子どもの服薬状況やてんかん発作などの健康状態を確認している。	保護者から得た情報に加え、カルテも活用し、両方を確認しながら支援を行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・アレルギーの検査結果を保護者からいただいている。アレルギーのある利用者が安全に過ごせるよう、クッキング活動、おやつの際には、職員間で情報共有を行い、確認を徹底している。	アレルギーのある児童とクッキングを行う際は、必ずカルテを確認し、安全に配慮して実施する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	・安全計画に沿って、必要な研修や訓練を定期的に受けて、安全な環境で支援が行えるよう工夫している。 ・毎月施設内の点検や施設外の点検も行っている。	点検で不備が見つかった場合は速やかに改善し、年間を通して研修を受けながらご利用者の安全確保に努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	・夢だよりなどでの報告やコドモン・連絡帳で保護者様へ周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・再発防止を図る為、情報を適時記入・記録し、職員間での確認と共有を徹底している。 ・気付いた時に記入するようにしている。	こまめに情報共有や報告を行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・定期的な研修を実施し、職員全体で虐待防止の意識向上と実践に繋げている。 ・会社の研修は必ず受けている。	研修への参加やアンケート記入を通じて振り返りを行っていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0		現在、身体拘束に該当する利用者はいない。感情が高ぶり他害の恐れがある場合は、クールダウン室への移動を促し、安全確保に努めている。また、その日の状況については保護者へ報告する。	
保護者様評価、自己評価についてまとめ						
<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有、支援方法の話合いを積極的に行っており、報連相の徹底をしています。 ・子ども、保護者様が安心して過ごせるような場所づくりをしています。 ・業務フローの確立、整備をしています。 ・家族会の日時や内容を再検討し、保護者様同士、交流しやすい場の提供、安心できる場所になれるよう努めます。 ・今後も安心してご利用していただけるよう、職員同士で支え合い、楽しく通所いただける事業所になれるよう努めます。 						